

会 報 い き い き

No.102 令和 4年1月1日

清田第四町内会総務部

新



春

清田第四町内会の会員の皆様新年明けましておめでとうございます。

新形コロナウィルス感染が終息の兆しが少し見えたような気がしますが、まだ安心できる状態とは言えません。海外ではオミクロン株という変異ウィルスが感染拡大しているようです。

当町内会としては昨年も行事の自粛をやむなくされました。今年もできれば様子見ということになりそうです。

今後は『with コロナ』という形の生活習慣が一般化すると思われます。

清田通の分譲地に新しい会員の入居が続いています、13班として活動をお願いしました。

2月に予定のパートナーシップ排雪は実証実験で12月25日に申し込み致しました。

降雪の予測は、できるものではありませんが、町内会の健全運営、予算削減のため実証実験という形で実施いたします。ご理解とご協力をお願いいたします。(実証実験Ⅱ型-② 雪を道路わきに残す(別紙に令和2年度実証実験のまとめを添付ご案内します))

令和4年度の町内会費につきましては、3年度町内会活動の中止を受け、またパートナーシップ実証実験として排雪費用の削減をしまして、繰越金として計上していた予算を一部充当し

令和4年度 町内会費は

月額 **400円** 年間 **4,800円**として、ご案内いたします。(ただし令和4年度限定)

令和3年度は5月のマス花壇花植え、会員有志によるごみステーションの改善加工、全ごみケージの塗装、10月のマス花壇後片付け、秋の清掃活動などに積極的なご参加下さいます。ありがとうございます。

令和4年度はコロナ禍も完全収束し、普段通りの生活に戻ることを期待します。

町内会行事も、今年度は自粛ですが、会員の皆様と、交流、懇親の場を設けられる日が早く訪れることを希望します。

本年も当町内会のスローガンである

「誰もが安心して快適に暮らせる生活環境づくりや

会員が相互に支えあう福祉のまちづくり」

を念頭におき住みよい地域づくりを会員の皆様とともに目指します。

末筆ですが、今年も町内会活動になお一層の、ご支援とご協力を賜りますようお願いするとともに、皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。

清田第四町内会長

迎 春

本年も宜しくお願い申し上げます

清田第4町内会役員一同

【パートナーシップ排雪制度】 令和2年度 実証実験結果のまとめ

1. 実証実験について

【目的】

「パートナーシップ排雪制度」の地域支払額が、近年、上昇傾向にあることから、従来の排雪断面（標準断面）のほかに“排雪時に雪を多く残し、地域支払額を低減した排雪断面”を設けており、地域の実情に応じて選択できるような運用を進めております。

【実験団体数】

令和2年度は、172団体から申し込みをいただきましたが、その後、少雪傾向であったことから取り下げもあり、148団体の実施となりました。

『実験断面Ⅱ型』（一般的に実施している断面）

＜特徴＞

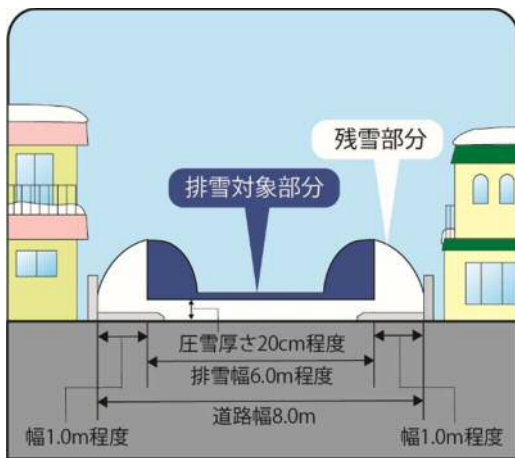
＜実験団体数＞ 137団体

R2年度
1km当り
35.00万円

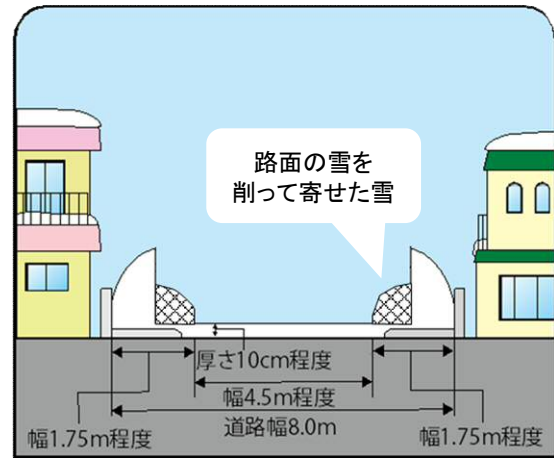
- Ⅱ型-①：路面の雪は厚く残るが、通行幅はこれまでどおり確保
- Ⅱ型-②：通行幅は狭いが、路面の雪はこれまでどおりの厚さ

どちらか寄りの仕上り断面を目標に作業を実施

Ⅱ型-①（雪を路面に残す）



Ⅱ型-②（雪を道路わきに残す）



路面の圧雪を保てる場合

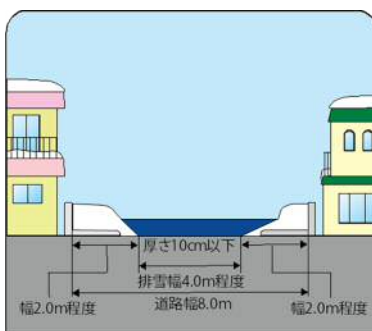
寒い

雪の残し方の違い

暖い

路面にザクザクが生じた場合

『実験断面Ⅰ型』（特定の団体に適用される断面）



＜実験団体数＞

11団体

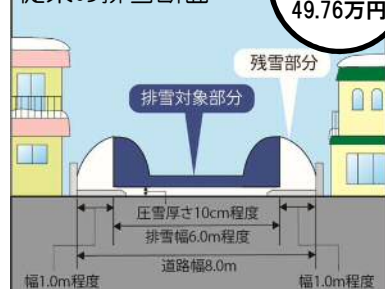
R2年度
1km当り
35.00万円

＜特徴＞

個人排雪等の利用率が高く道路上の雪が比較的に少ない団体に有効

【参考】『標準断面』

従来の排雪断面



R2年度
1km当り
49.76万円

【パートナーシップ排雪制度】 令和2年度 実証実験結果のまとめ

2. 実施状況

	R1			R2		
	申込団体	実施団体	取下団体	申込団体	実施団体	取下団体
標準断面①	1,129団体	636団体	493団体	1,130団体	1,022団体	108団体
実験断面②	152団体	60団体	92団体	172団体	148団体	24団体
全体③	1,281団体	696団体	585団体	1,302団体	1,170団体	132団体
実験断面割合(②/③)	12%	9%	-	13%	13%	-

3. 地域アンケートの結果

実験団体の①代表者(町内会長や役員など)と②沿線住民を対象にアンケート調査を実施しました。問1～問2の結果は、代表者と沿線住民の回答を比べるグラフにしています。

【アンケート方法】

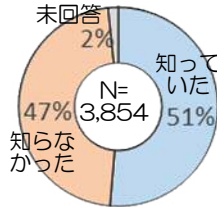
アンケート用紙をポスティング、返信用封筒による投函

【回収率】

①代表者 配布: 139 回収: 127 回収率:91.4% (R1:88.3% **3.1%↑**)

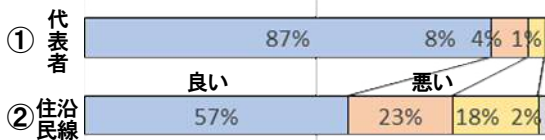
②沿線住民 配布:9,856 回収:3,854 回収率:39.1% (R1:33.0% **6.1%↑**)

【実証実験の認知度(沿線住民)】



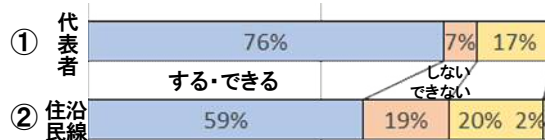
問1) 断面の選択制

排雪量を抑え地域支払額を低減した断面を選択できる制度運用は良いと思うか？



問2) 次年度の利用

①実験断面を希望するか？
②実験断面の選択に賛同できるか？



【凡例】
□ わからない
■ 未回答

問1) 断面の選択制

【良いと思う】	R1	R2	比較
①代表者	87%	87%	±0%
②沿線住民	53%	57%	4%↑

問2) 次年度の利用

【希望・賛同する】	R1	R2	比較
①代表者	68%	76%	8%↑
②沿線住民	54%	59%	5%↑

沿線住民からの主な意見

- ・従来のパートナーシップ排雪より雪が多く残ったが、町内会費が抑えられるなら良い。
- ・費用が掛かることなので、断面を選択できるのはいい事だと思う。
- ・費用負担が増えても標準断面で排雪してほしい。
- ・今年は雪が少なめだったのでいいが、多い年はこのやり方は困る。
- ・実験内容自体を知らなかった。
- ・今回の実験の知らせがあった方が良かった。
- ・実験断面である事を町内会員に周知したほうがいい。

認知度不足による意見も多い。